



自主調査

台風10号 @ 九州

防災意識に関するアンケート

2020年09月

株式会社 プリミティブ・ドライブ

問い合わせ先

株式会社プリミティブ・ドライブ リサーチ事業部 (担当：徳永)

TEL : 092-735-1077

E-MAIL : miyamoto@primitive-drive.co.jp

データ公開

本調査のフルレポートは、株式会社プリミティブ・ドライブのホームページから入手いただけます。

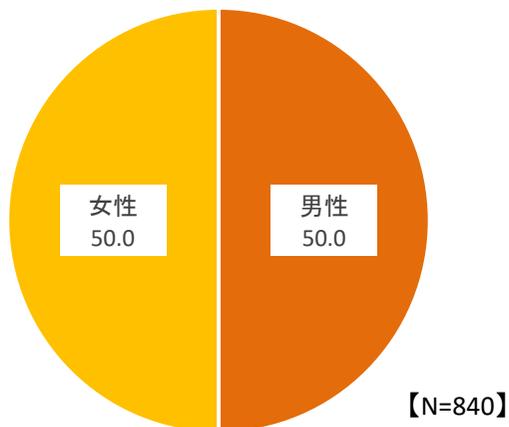
(株式会社プリミティブ・ドライブ ホームページ <https://www.primitive-drive.co.jp>)

調査概要

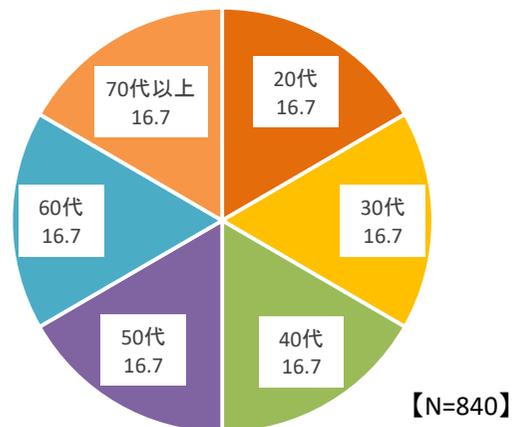
調査概要	2020年9月6日～7日、九州に上陸・最接近した台風10号における九州7県の生活者の防災意識の実体を把握することを目的とし、アンケートを実施した。
調査対象者	九州7県在住の20代から90代の男女 各県 120 サンプル 合計計840 サンプル
調査手法	インターネット調査
調査時期	2020年9月12日（土）～17日（木）
調査実施主体	株式会社プリミティブ・ドライブ

II. 調査結果【対象者属性】

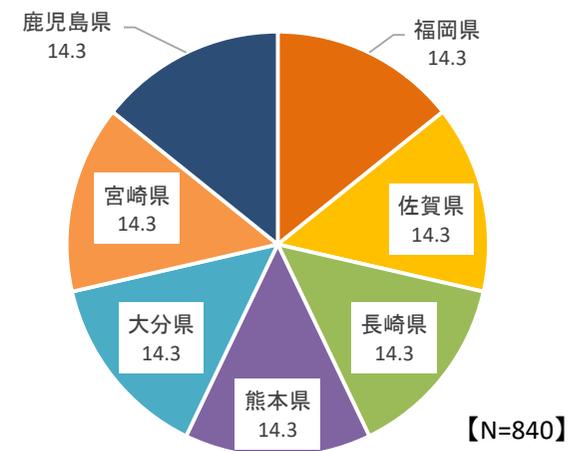
性別



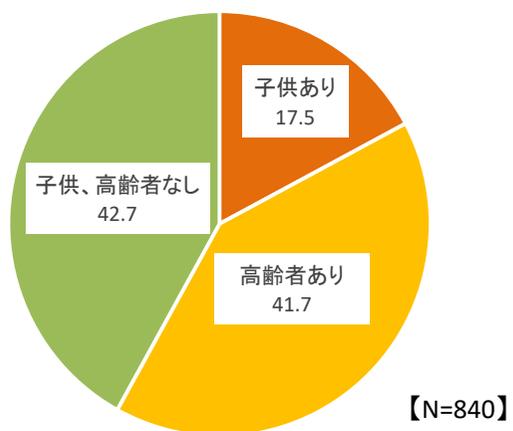
年代



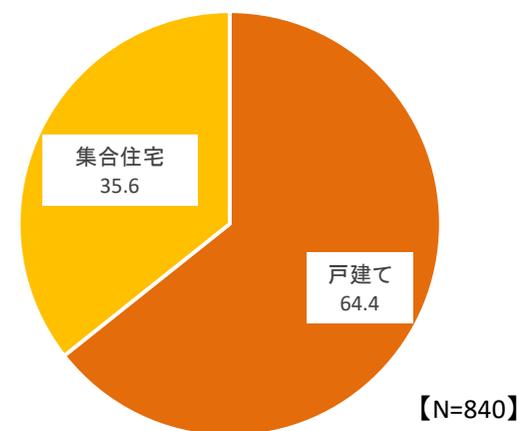
居住地



同居家族

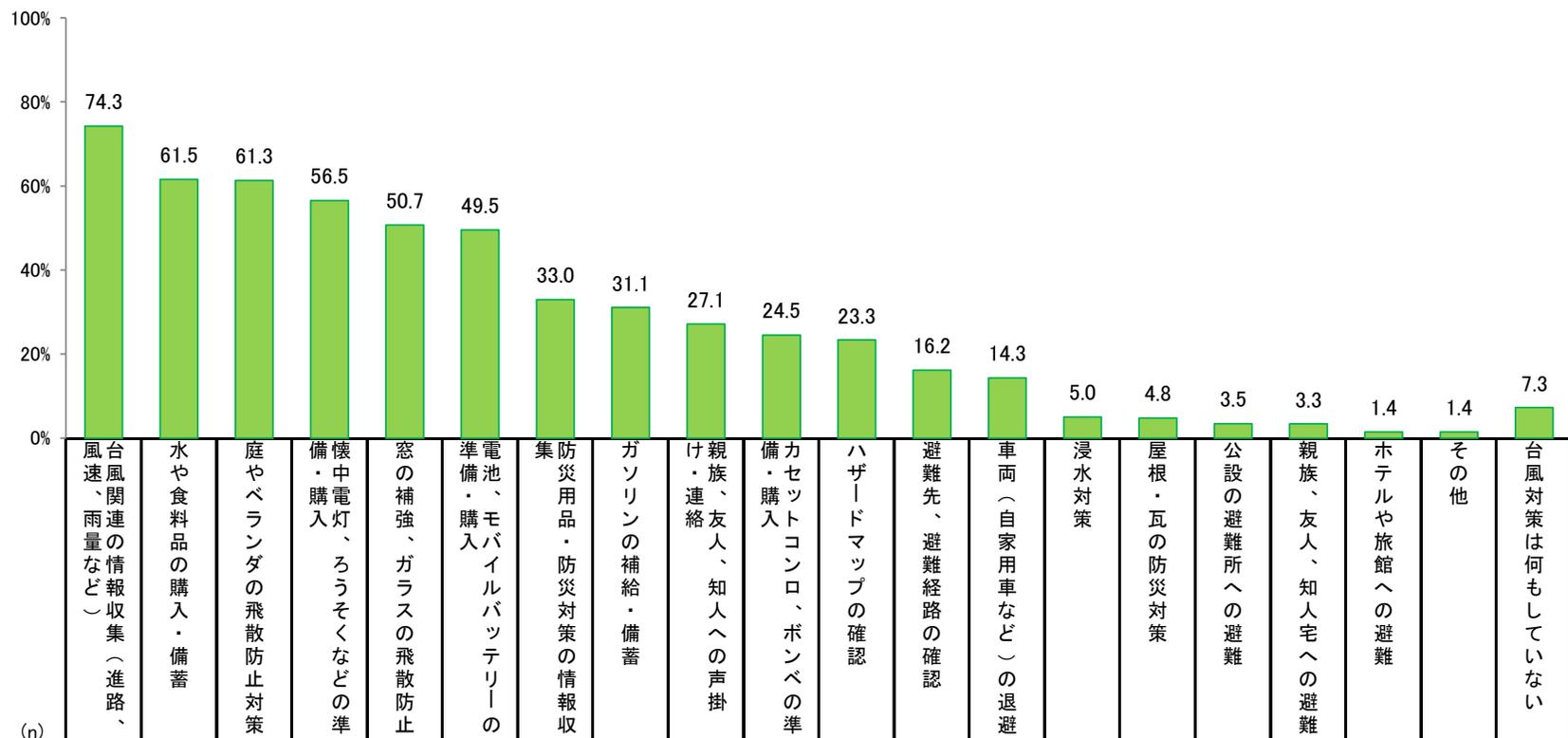


住居形態



II. 調査結果【実施した防災対策】

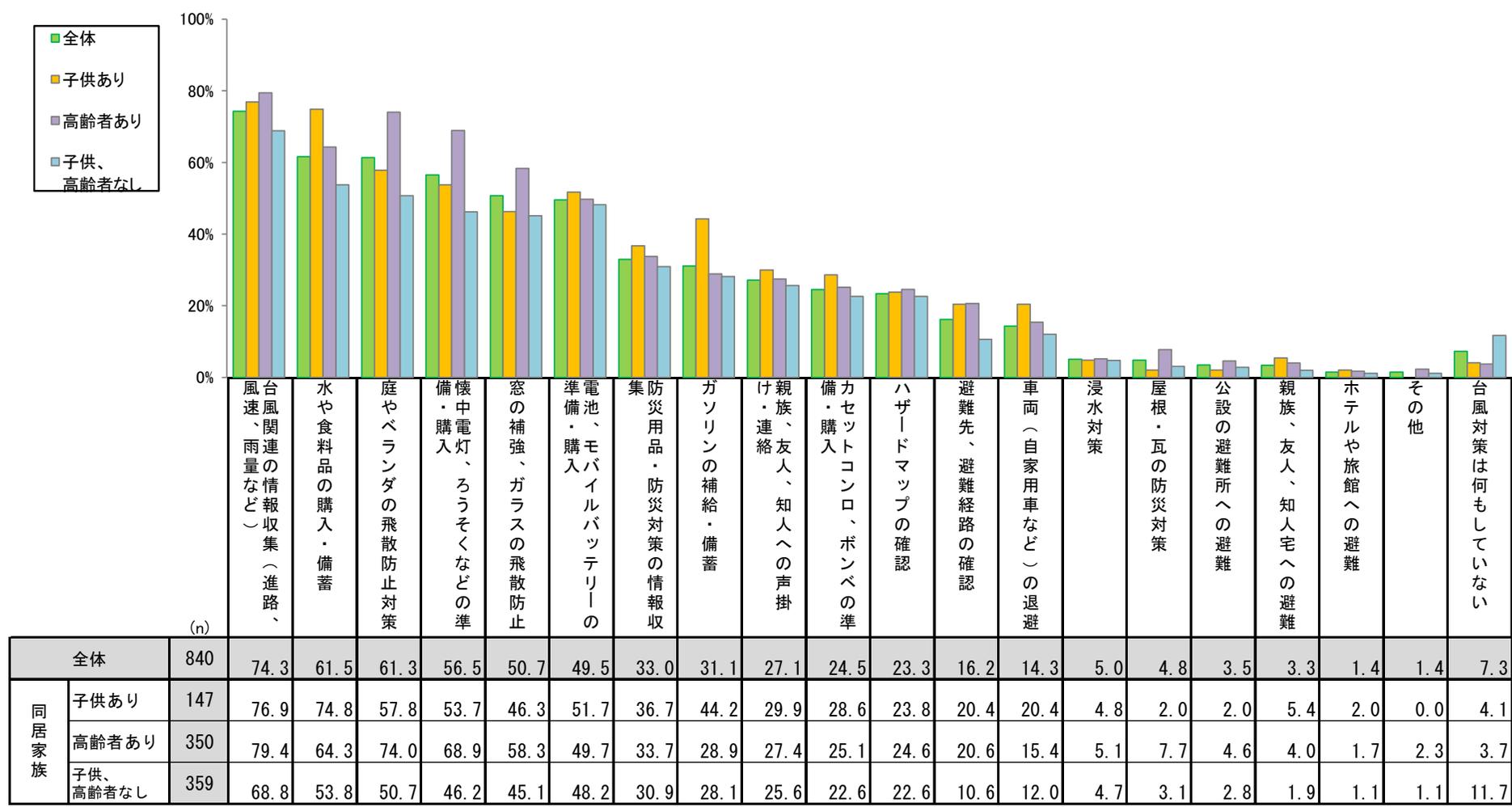
▶ 全体をみると、「台風関連の情報収集」が74.3%で最も高く、次いで「水や食料品の購入・備蓄」（61.5%）、「庭やベランダの飛散防止対策」（61.3%）となっている。



		(n)	74.3	61.5	61.3	56.5	50.7	49.5	33.0	31.1	27.1	24.5	23.3	16.2	14.3	5.0	4.8	3.5	3.3	1.4	1.4	7.3
全体		840																				
都道府県	福岡県	120	67.5	65.8	60.0	47.5	48.3	46.7	28.3	21.7	18.3	19.2	28.3	10.8	10.8	6.7	5.0	3.3	5.0	3.3	0.0	10.0
	佐賀県	120	75.8	64.2	67.5	63.3	58.3	45.8	32.5	25.8	25.0	30.0	16.7	19.2	15.8	5.0	5.8	4.2	3.3	1.7	2.5	9.2
	長崎県	120	80.0	63.3	65.0	63.3	61.7	56.7	32.5	35.8	34.2	35.0	23.3	24.2	18.3	5.0	4.2	4.2	1.7	0.8	2.5	3.3
	熊本県	120	75.8	64.2	65.0	62.5	58.3	55.8	38.3	38.3	29.2	21.7	24.2	20.8	10.8	4.2	5.8	3.3	6.7	0.8	0.8	5.0
	大分県	120	70.0	55.0	58.3	45.0	37.5	45.8	25.0	30.8	24.2	21.7	19.2	12.5	9.2	1.7	0.8	1.7	2.5	0.0	1.7	7.5
	宮崎県	120	70.8	55.8	57.5	54.2	42.5	45.0	36.7	28.3	29.2	23.3	24.2	14.2	11.7	8.3	5.8	2.5	2.5	1.7	1.7	8.3
	鹿児島県	120	80.0	62.5	55.8	60.0	48.3	50.8	37.5	36.7	30.0	20.8	27.5	11.7	23.3	4.2	5.8	5.0	1.7	1.7	0.8	7.5

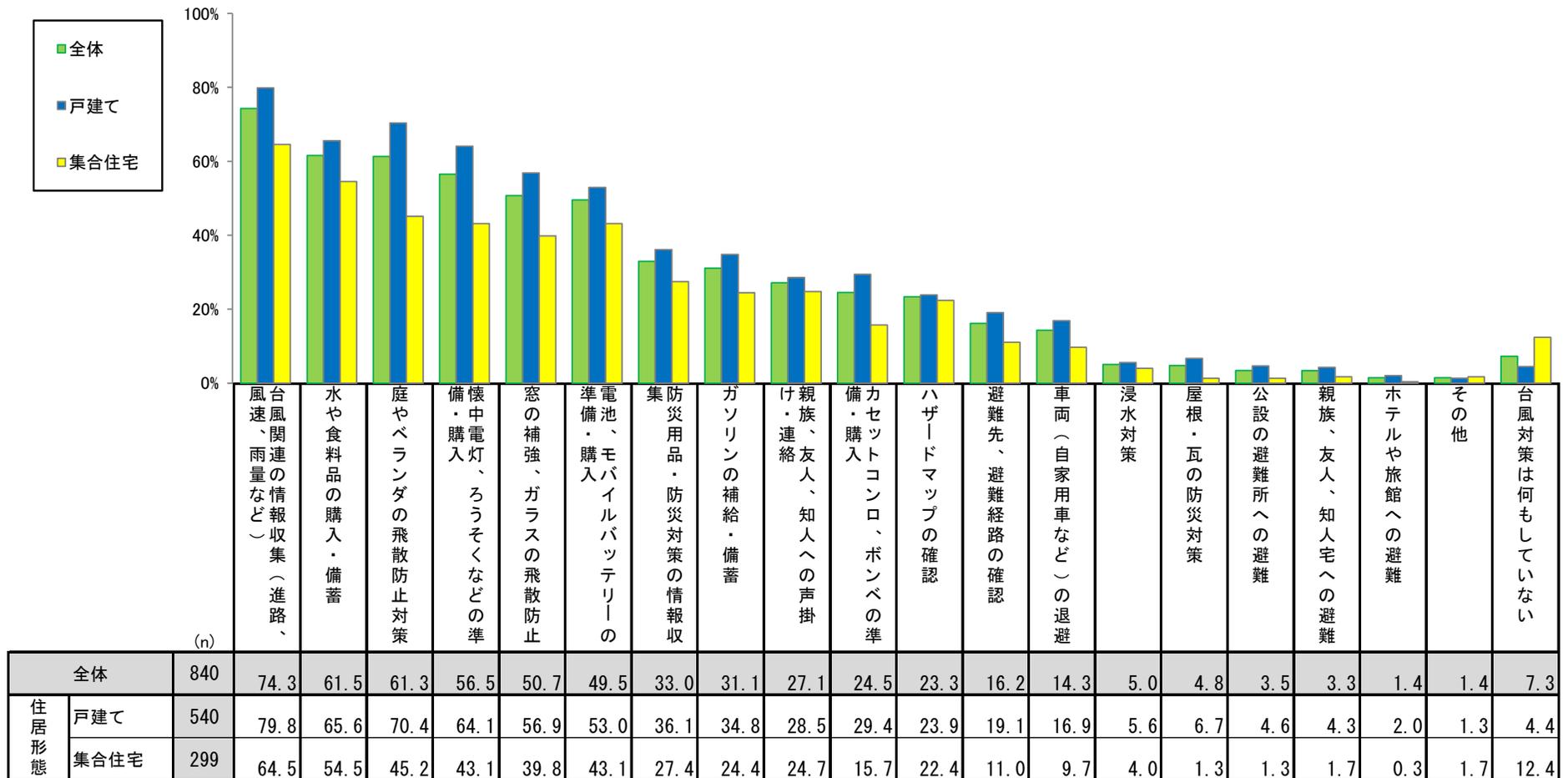
II. 調査結果【実施した防災対策】※同居家族別比較

▶ 同居家族別に全体結果と比較すると、子供がいる世帯では「水や食料品の～」、「ガソリンの～」が高くなっており、高齢者がいる世帯では「庭やベランダの飛散防止対策」や「懐中電灯、ろうそくなどの～」が高くなっている。



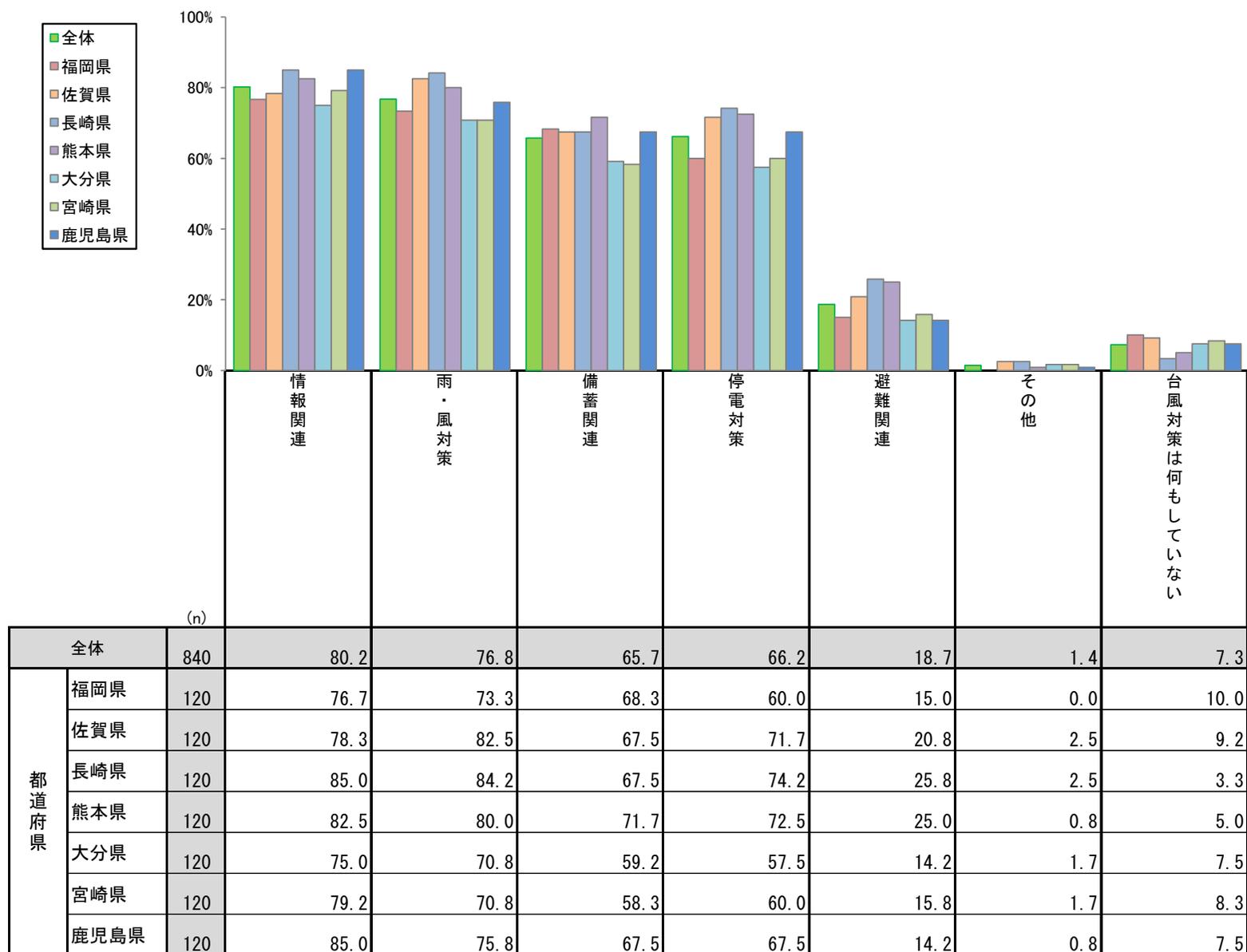
II. 調査結果【実施した防災対策】※住居形態別比較

▶ 住居形態別に比較すると、戸建て世帯ではいずれの項目も高い傾向にある。



II. 調査結果【実施した防災対策】※県別比較

➤ 県別に比較すると、福岡県、大分県、宮崎県では、全体結果よりも低い傾向がみられる。



II. 調査結果【「困ったこと」「今後活かしたいこと」自由回答】

[事前準備]

- 最も多く意見が挙げられたのは「事前準備」についてである。多くは「もう少し早く準備をしていればよかった」と感じ、「食べ物の確保は、事前になって慌てるのではなく、日頃の備蓄が大事」、「小さな子どもがいるとミルクや離乳食の準備や生活保持が難しい」というコメントがみられた。
- 「普段から災害に対しての備えの大切さが分かった。自宅から近い避難場所の空き具合などを具体的に確認できるアプリなどの情報があつたらいい」とモノだけでなく、情報面での事前準備の重要性を指摘する声もあがっている。

[雨風対策]

- 「雨」よりも「暴風」対策に苦慮した様子がうかがえる。特に。雨戸がないガラス窓問題。養生テープを張るなど破損しないために万全の策をと、ホームセンターに走るものの、みな考えることは同じで既に売り切れ。これからはいざという時のためにちゃんと備蓄しておこうと心に誓う…という流れ。特に「養生テープ」が手に入らず、窓ガラス強化対策が出来なかったことに対する残念感は強く、二度とそんな思いはしなくないと、今後の備蓄物第一位は養生テープ。

[備蓄対策]

- 「宅配便が使えなかった。物流が滞り台風接近とその後の2、3日間は店舗でのインスタント食品、パンなどの商品が無くなった」など、売り場の棚に飲料水、電池、養生テープ、カセットボンベなどが売り切れた状態を目の当たりにし、日頃の備蓄の重要性を痛感したとの声が多い。またテレビの加熱報道で買いだめ、買い占めが起こり、必要な人に必要なものが行き渡らなかったことに対する批判も出ている。

II. 調査結果【 「困ったこと」 「今後活かしたいこと」 自由回答】

[情報関連]

- 「今回の台風はメディア、気象庁、市区町村の対応などが余りにも大袈裟だった」といった批判的な意見や、「防災用品の準備したかったが、品切れだった」など、結果的に「品薄」「買占め」を煽った加熱報道には反省が求められている。
- 一方で「加熱報道のおかげで被害が少なかったのは否めない。事前情報はこれくらい強いメッセージを訴えたほうがいい」という対照的な意見もあがっている。
- また「テレビの情報、気象庁や市区町村の情報は参考とはするが、居住地域での過去の災害と自身の災害経験を合わせ、情報に惑わされず自分自身で判断する事が大事だと思った」といった意見も見られた。

[行政対応]

- 「雨・風の大きな音と窓・戸を閉めきっていることで防災無線がほとんど聞こえなかった」、「あまりに早い段階で避難勧告。何度も何度も市役所からのメール。どの段階でどのように行動すればよいのか、事故が起きた時の責任逃れのメールに見えてくる」など行政に対する苦言もあった。

[避難関連]

- 「避難受け入れ場所が少ない。コロナ事情もあるが、避難したくても行けない人がいた。ある程度受け入れ場所の確保を普段から確保してほしい」、「今後は事前にホテルを予約しておきたい」など、コロナ禍での安全な避難場所の確保と情報提供が求められている。
- 「ペット（犬）がいるので、避難所に行くのがためらわれて家にいた。普段から ペットとの避難の事をちゃんと考えていないと いざと言うときに行動がとれないと思った。」、「避難する時ペットの猫2匹をどうすれば良いかわからなかった。」など、ペット連れで避難する際の不安や不便さに関する声もあがっている。一方で、「ペット連れ込み可の避難所には行きたくない」という対立した声もあり、コロナ対策とともにペット対策も併せて考える必要がある。「ペット用避難グッズ」など、人以外の避難方法、情報提供も望まれている。

問い合わせ先

株式会社プリミティブ・ドライブ

〒810-0041 福岡市中央区大名2丁目8-18 天神パークビル7F

TEL : 092-735-1077

E-MAIL : info@primitive-drive.co.jp

データ公開

本調査のフルレポートは、株式会社プリミティブ・ドライブのホームページから入手いただけます。

(株式会社プリミティブ・ドライブ ホームページ <https://www.primitive-drive.co.jp>)